# 第３回富山市都市マスタープラン検討委員会　議事

| | |
|---|---|
| 日　時 | ：　令和６年８月８日（木）午前１０時～午前１２時 |
| 場　所 | ：　富山市役所　議会棟８階　第４委員会室 |
| 出席者 | ：＜委員＞<br>久保田委員、姥浦委員、本田委員、川本委員、中村委員<br>星川委員、布目委員、田中委員、上田委員、北岡委員、<br>佐藤委員（代理・事業対策官　飴谷氏）、川上委員<br>＜事務局＞<br>活力都市創造部長、活力都市創造部次長、<br>活力都市創造部次長（技術）、都市計画課長、その他４名 |

## １　開会

## ２　議事

### （１）　第２回検討委員会の主な意見、全体構想に関わる追加の分析等、全体構想（まちづくりの理念と目標）の素案について（資料Ｐ２～３４）

委員長：　検討委員会資料について、質問を受けたいと思う。まず、第２回検討委員会の主な意見について、何か意見や指摘はないか。前回までの議論を踏まえ、今回の資料を作成しているので、後ほど気付いた点があれば指摘いただきたい。

　では、全体構想に関わる追加の分析等について意見、質問をいただきたい。

委　員：　コンパクトなまちづくりの市民評価について、コンパクトなまちづくりで助けようと思っていた高齢者の評価が低いことについて、どう考えているか。また、年代だけでなく居住地域についても分析した方が良いのではないか。７頁左下のグラフにおいて、郊外や中山間地域に居住する市民は、まちなかや公共交通の沿線に居住したいと考える人が低くなっており、最も移動の必要な人が動かないことについてどう考えているか。

事務局：　ご指摘のとおり、若い人に比べて高齢者の評価が低いということはあるが、全体的には概ね良い評価である。その中で、評価が低い方々のコンパクトなまちづくりに対する理解を深めていただくことや、出てくる課題が何なのかを整理していきたいと考えている。

　また、誘導的手法をとりながら、ライフスタイルによって居住地を選択いただき、最終的にはコンパクトまちづくりにしていくことを言っている。その中で、一定程度、中山間地域などに住みたいという方々が

いる。そういった方々の生活をどう維持していくかというのは課題として認識しているところである。

委　員：　７頁のコンパクトなまちづくりの認知度別の居住地希望については、学歴や職業、コンパクトなまちづくりについて評価・認知度に違いがあると考えられる。コンパクトなまちづくりの情報発信をしっかり行うことで変わっていくことが考えられる。

委員長：　居住地選択の背景としての情報の有無ということか。

委　員：　そうである。情報があれば意見が変わるかもしれない。知っている人と知っていない人の属性に差がある可能性もある。

委員長：　それは、今回のアンケートの属性情報を調べれば見えてくるものがあるかもしれない。

事務局：　ご指摘を踏まえて検討してみたいと思う。

委員長：　その他に意見はいかがか。

委　員：　６頁のこれからのまちづくりで特に取り組むべきことの設問について、複数回答か。

事務局：　複数回答である。

委　員：　第１位の「公共交通の活性化」の６０％というのはかなり大きい数字のように思う。

委　員：　８頁の求める都市機能について、コンパクトなまちづくりにとって必要な情報だと思う。年代別にも見てみるとよいのではないか。「自宅から歩いて暮らせる機能にあってほしい機能」では、「小学校や中学校などの義務教育施設」が約２０％であるが、属性の分析を見ると、子育て世代が全体の２０％ぐらいいるため、そのような世代では、ほぼ１００％となるのではないか。ライフステージに合った居住地を総合的に考えると、どのような年代がどのような都市機能を求めているかは、世代によって変わってくると思う。そのあたりを精査していただければと思う。

委員長：　そのあたりも精査していただければと思う。他はいかがか。

委　員：　６頁と１３頁の矢印の使い方について、矢印は数値が変化したという時に使うものだと思うので、年代別で違うという意味で記載しているのであれば理解しづらいので修正をお願いしたい。

　５頁のＬ２で浸水想定がほぼ全域という話をされているが、千年に一度、数百年に一度レベルのものが来たら仕方がない話である。その場合、土地利用ではなく別の方策で命を守るということになるが、５頁の最下段、災害リスクの課題にある「都市の安全確保を前提とした土地利用の推進が必要」ということであれば、都市マスとしてはＬ１で見た方がよいのではないか。Ｌ１でも浸水するようなところがあるとして、支川の情報を載せるほうが、都市マスとしては考えやすいのではないか。

委員長：　この点、事務局はいかがか。

事務局：　ご指摘のとおり、既存の市街地でのリスクを評価する場合には、Ｌ１で見た方がよいとは思っていたが、新たに市街地を整備するかどうか

の判断する場合には、Ｌ１もＬ２をどちらのリスクも意識した方がよいと考えており、代表的なものとしてＬ２を載せた。使い分けをしっかりしていきたい。

委　員：　何を見るかということとリンクするかと思う。

委員長：　Ｌ１について、どう記載するかも検討いただければと思う。他はいかが。

　４頁に利用圏域の表があり、沿線によって異なる利用圏域の数値となっている。これは実績ベースだと思うが、どのように算出したのか。例えば、一人でも歩いてくる人がいれば対象とするのか。どのくらいの人が歩いてくるところの値となるのか、その判断について伺いたい。

事務局：　この調査は、公共交通を利用して、降りた方を対象とした調査である。利用圏域については、回答者が歩いて来ている住所地で、駅から５０ｍ単位ごとに圏域を設定して、途中で大きく下がる距離帯があるので、そこを境目として設定しており、概ね７割の徒歩利用者が入る形で算出している。

委員長：　承知した。

委　員：　６頁のコンパクトなまちづくりの市民評価について、公共交通機関が充実している、マンションがたくさん建っている、もしくはデパートやユウタウンがある等、何があるからこの評価となっているのか聞きたい。例えば、大和デパートが撤退した場合、魅力がなくなることがある。ユウタウンがあれだけの投資をして建物を建て、今機能しているかというと商業施設的には劣化的な状態を続けている。もしくは、ダイワマンションのプレミストの下もまだ空いている状態である。何が魅力でコンパクトシティを評価しているのか、全体的にまちがあるからいいよねという感じで評価がぼやっとしている気がする。もう少し具体的なものがあるとよくなるのではないか。

事務局：　この評価のアンケートの下に、４つの目標に対して評価をいただいており、公共交通の活性化では７割近くの人が評価しているが、その他はバラバラな評価であり、統計的にこれがないと魅力的ではないというのは表れていない。

委　員：　マスタープランをつくるときは、核となるデパート、商業施設も含めて考え方を示していかないといけない。特に高齢者は大和デパートに魅力を感じている人が多いと思うので、その辺り中心に検討していただきたい。

委　員：　５年後、１０年後、２０年後に現在の公共交通機関が維持されているのかが住民にとってはとても不安である。各地域のスローモビリティは、公民館発で目的地は病院かスーパーマーケット、そこを往復するか循環するかである。今後、歩いてバス停、鉄軌道まで行けないのではないかという不安がある。コンパクトなまちづくりの評価の数字だけで一喜一憂してはいけない。市民の評価がどのようなことに影響しているのか、分析が必要だと思う。とにかく将来的に現在の公共交通機関が

維持されているか、住民は大変不安に思っていることが事実である。

事務局：　コンパクトなまちづくりの評価における公共交通の活性化については、比較的良い評価をいただいており、サービスレベルの向上などで評価いただいていると思うが、そういった活性化は今後も続けていくとともに、住民の方に不安を抱かせないような取組み、周知を行っていきたい。

委員長：　活性化のあり方にもいろいろパターンがある。便数の増加、路線の増加、乗降数が増えるのも活性化であり、活性化のあり方は地域ごとに違うと思う。どのように活性化した公共交通が地域でよいのか、次の段階で考えていくと思うが、それぞれの地域ごとの公共交通のあるべき姿が描けるとよい。

委　員：　高齢化が進む中で免許がない、車を持っていない人の直接的な不安は、どこで買い物をするか、暮らしに密接した不安がある。それを行政がどうやって応援していくか、しっかり考えてほしい。

事務局：　その他、意見はあるか。

委　員：　５頁の災害リスクの関係で、大雨時のデータとして、内水被害についてはチェックしているのか。富山市は市街地内でけっこう内水対策をしているかと思う。ある程度、注視した方がよいと思う。

事務局：　昨年度、立地適正化計画の防災指針で、内水の実績などを中心部だけであるが確認している。全市的なものはないため、参考値としてみている。

委員長：　次に全体構想（まちづくりの理念と目標）の素案についての意見はあるか。

　１５頁の人口減少のグラフについて、第１回資料に掲載されていた人口ピラミッドがわかりやすかったので、それを追加してはどうか。もし、都市マス本編にボリュームがあるのであれば、データ類は別冊資料としてはどうか。そのほかの具体的なデータ等、載せきれない資料の扱いはどうするのか。

事務局：　指摘内容を踏まえて検討したい。

委員長：　データ等を詳しく確認する市民がロジックの組み立てまでもがわかるように、データ等を公表しておくのがいいと思う。

委　員：　20 頁の公共交通の利用者数の実績と将来推計について、高齢者は今後横ばい傾向になると思うが、高齢者のニーズは考慮しているのか。

事務局：　推計の仕方としては、現在の利用圏域において、今後どのような人口が残るかを把握し、現在の利用の仕方で推計している。そのため、高齢者が増えた分、利用する割合が増える分は反映されているが、車を手放す人数などは反映できていない。

委　員：　現在の利用者推計で高齢者は６５歳以上であるが、実際に免許返納する年齢はもう少し上になるのではないかと思う。そういった人口動態をもう少し反映させた方がよいのではないかと思う。

委　員：　２１頁の収入の状況のグラフについて、Ｒ１～３はコロナの影響で減

少する赤い矢印が示されているが、実際には、Ｒ２～３は微増、Ｒ４もまた上がっているのではないかと思う。細かい話であるが、矢印はＲ２までででよいのではないか。

事務局：　最終的には最新の情報で確認し、反映していきたい。

委員長：　他にいかがか。

委　員：　３つある。１つ目は１１頁の公共交通が便利な地域に住む人口割合について、これは、便利な地域に入ってきた人と、便利な地域自体が増えたということであったと思うので、その両面を書いた方がよいのではないか。単に都市マスだけでなく、公共交通と連携しながらやった結果として割合が増えている、連携ができているところは誇ってよい部分だと思う。ここは明示し、これからも連携していくことを示したほうが良い。

　２つ目は１２頁の市街化区域内外の人口移動状況について、割合で見ると市街化区域内の移動が拡大、双方の移動傾向に大きな変化はないということだが、差し引きで見ると、上の年次は転出超過であるのに対し、下の年次は転入超過になっている。外に出てっていっている人が多かったが、中に入ってくる人が多くなっているということなので、そこも成果として誇り、書いた方がよいのではないかと思う。

　３つ目は１３頁の市民の評価について、なぜ良かったのか、なぜ良くなかったのかの評価の分析をした方がよい。その際、将来を担う３０歳代の市民が、新しい考えを持っているから良かったのか、それとも、３０歳代の市民も６０歳以上になると、やっぱりだめだということになるのか、そういったことも分析して文章を書くとよいだろう。個人的には、若い人が６０歳代になってもそういう考えであるとありがたいと思うが、この背景にあるものが、交通弱者なのか、何なのか、考え方を分析して、示したほうがよいだろう。

事務局：　ご指摘を踏まえて、検討する。

委員長：　属性による評価の違いなどはあるのか。

事務局：　年齢以外に特段の傾向は現時点では見られていない。また、まちづくりの目標別の評価でも公共交通の活性化については全体的に良い評価傾向にあるが、「中心市街地の活性化」「公共交通沿線への居住推進」などの項目については、評価に特段の傾向が見受けられない。属性などを確認しながら、詳細な分析を進める。

委　員：　１７頁の平面駐車場の分布について、平面駐車場にもいろいろな形態があり、店舗に付帯するものはいわゆる機能であり、そこを評価することも可能かと思う。問題となりそうなのは、コインパーキングである。そういった分類は分けてみてもいいのではないか。

委員長：　他いかがか。

委　員：　１５頁の人口と世帯数の実績と将来推計について、細かいことであるが、人口が減ることを強調したければこのままでもよいが、どれぐらい減るかを表現するのであれば、目盛りのスタートは０としたほうがよ

いのではないか。実は拡大しているけどあまり減っていないのか、実は減っているのか、何を言うかでグラフが変わる。個人的には０からの方がよいのではないかと思う。

委員長：　図の表現へのご指摘だった。一方で、人口減少の現実を知ってもらうことも重要だろう。ただ人口だけでなく、個々に見たときに、子供の数、小学校や学級数がどれくらい減っていくかなど、そういったこともリアルな問題として、ほぼそうなるとわかっていることもある。先ほども小学校の立地の話があり、子育て世代にとっては小学校の立地も重要であるが、そういった情報も含めて記載してもいいのではないか。ここは市街地特性を分析する部分なので、できるだけ現実を見せておく、それを踏まえて次のまちづくりをどうするかということなので、この人口のグラフをどう見せるかというのもあるが、個人的には厳しい内容もしっかり書いておくことが必要かと思う。そういう意味で２２頁の膨張する都市管理コストの項目で、道路の整備状況や公園、橋のデータが載っているが、第１回目かに示していた下水道のデータを載せておいてもいいのではないか。

事務局：　検討する。

委員長：　２３頁の財政状況の見通しについて、歳出の見込み額と歳入の見込み額にどんどん開きがでるというグラフがあり、その上の文章で、「都市を管理するため社会インフラの維持管理・更新や災害リスクへの対応等は限られた予算の中で進めることが必要」ということは事実だが、その時にどうしても社会インフラの取捨選択がでてくると思う。ほぼ確実にくるのであれば、そのこともしっかり書いておくことが必要ではないか。厳しい現実を示すことで、その後、どのようなまちづくりをしていくかということになる。明示していくことが必要となると思う。

事務局：　インフラの取捨選択については、マネジメントという表現もあるので、どういう言葉で書くかは検討していきたい。

委員長：　マネジメントは便利な言葉で使いやすいが、取捨選択が必要など、表現も気を付けて書いてほしい。

委員長：　それでは２７頁以降でご意見があれば、いかがか。

委　員：　今後の施策で公共交通が届かないエリアの人をどうするのか。先ほど、路線ごとに利用圏域が違うとのことであったが、その距離より外の人はやはり車を使わざるを得ない。また、高齢者になった時には、行きも帰りも１０分歩くことになるとそれもきつい。その場合、共助のシステムで、個人の車を使い、地域住民を公共交通の駅まで送迎などができたらよい。それを導入、積極的に施策として取り入れてもいいのではないか。以前、新庄地域の方にインタビューした際、新庄地域の不便なエリアでは、住民が共助で乗せているとの話があった。ただ、不安なのは、白タクなどの違法行為になってしまうのではないか、また、事故を起こしたときの保険の問題があるとのことだった。また、ガソリン代も自ら負担しているとのことだった。そういった共助のシステムで不安を取

り除き、公共交通が届かない所で制度として導入できるとよい。

また、２つ目として、富山市のコンパクトシティのうまくいったところを見せていると思うが、うまくいかなかったところ、都合が悪い部分にあまり光があたっていないと少々感じた。都合が悪いこと、できていないことにフォーカスするのは悪いことではなく、そういった部分を問題解決していけばよいので、富山市をよくしていくためには、都合の悪い部分、高齢者の話や中山間地域、不便な地域の人がなぜ移動しないのかなど、そういった部分に対応していくことが重要かと思う。それができていないから悪いのではなく、十分な成果はあると思うので、足りないところにも目を向けてもらえればと思う。基本的に人が出ていく、人口が減少することが前提となっているが、それを完全にひっくり返すのは無理だとしても、例えば少しでも人を呼び込むこと、もしかしたら公共交通を含めて観光利用をもっと推進していくことを考えてもよいかもしれない。富山は水の街だと思っているが、富山だと、半日で巡る観光地がない。例えば、バスで市内や山を巡り、そのまま富岩運河から富山湾まで一周してくれるような水陸両用の観光や、公共交通を繋いで富岩運河で富山湾まで行き、帰りは富山港線で戻ってくるなど、そのような観光で人を集めるといいのではないか。

富山は若い女性の流出が顕著である。女性はサービス業で働く傾向にあるが、富山はその働き先が少ないように見える。例えば、富山市内の観光がもっとできると、どのくらいの効果があるか分からないが、女性の働く先ができると、富山に残る選択肢になるかもしれないと思った。

委員長：　３点あった。事務局、いかがか。

事務局：　公共交通については、３０頁に交通のモードをシームレスにつなぐということ、地域内では新技術や地域内共助による移動手段の確保ということで、これまでもやってきている部分もあるが、これからも進化させていくことを都市マスの中でも記載していきたいと考えている。

委　員：もしかしたらもう少し強調してもいいのかもしれない。

事務局：　これまでは全体の話をさせていただいているが、都市マスではいろんな地域の生活像をどうしていくかも大切だと考えている。光が当たらない部分の記載になるかはわからないが、郊外部の暮らしをどうしていきたいかは触れていきたいとは考えている。また、３つ目に関しては、都市マスの中でどれだけ記載できるかというのはあるが、まちの魅力、富山市の魅力を高めていくことで、住み続けたいという人を増やしていくまちにしていきたいと考えており、検討していきたい。

委員長：　都合の悪いところに光を当てる話に関連するが、27 頁にまちづくりの理念、現状の課題認識が整理されている。この整理に至るまでに細かく分析をされているが、これを文章化する際に、表現が曖昧、語尾が曖昧になることがあると思う。例えば、「恐れがあります」という表現がある。確かに恐れがあるというと全部恐れがあるわけで、正しい文章で

はあるが、しかし、前段でいろいろ分析した結果、恐れがあるという可能性がある話と、確実にこうなるという話が見えてきていると思う。そういったところの語尾の表現に気を付けて、分析の精度を無駄に落とさないような文章表現にした方がよい。わからないことまで言い切る必要はないが、わかっていることについては明言するなど、言葉を使い分けて表現したほうがよい。

委　員：　まちづくりの理念や基本方針の中に「次世代につなぐ都市リノベーション」のキーワードが入れられていて、人口減少や都市の財政制約の中で都市のリノベーションを進めていくことは非常に良いと思った。１つ思うのは、都市の稼ぐ力にフォーカスしたような施策がないのではないかと思った。基本方針や目標では、居住誘導や公共交通の活性化、市民生活利便性を高めていくようなものについては十分検討されているが、例えば、拠点政策の中の中心市街地の活性化の中で、中心市街地にいろいろな都市機能を誘導していく、第 1 回目ではウォーカブルの話もでており、重要だと思っている。ヒト、モノ、カネが域内の中で循環していく仕組みをどうやって機能誘導していく中で作っていくかの視点があった方がよいのではないか。ウォーカブルであっても中心地に行きたくなるような機能がないと、来ない。その機能をどう誘導していくか。財政制約もあるので、民間なども活用していくことになるだろう、そういう視点が今後は必要である。都市のリノベーションだけだと、どうしても縮小傾向になるのではないか。都市の稼ぐ力を高めていくような施策を入れていくことが必要であると思う。

事務局：　稼ぐというキーワードは、前回もご指摘いただいていたと思う。観光の話もそうだが、拠点の特性を考えていく中で稼ぐというキーワードを入れて、設定していけたらと考えている。

委　員：　３４頁の「３　地域の個性が発揮された拠点集中型のまち」の中で、「本市の「顔」にふさわしい広域的な都市機能の集積」とあるが、生活利便性だけでなく、まちに人を呼び込む、域内で人や活動がぐるぐる回るような機能を富山市が整備するのではなく民間の方々を誘導していくことできる機能ができれば、財政制約の中でその部分も底上げできるのではないか。ぜひ、稼ぐ力を高めていってほしい。

委員長：　他にご意見はいかがか。

委　員：　街の老朽化について、老朽化の仕方は町丁目単位で、隣り合っていたとしても全然違うと思う。今後、地域を考えるときに、町丁目単位の積み上げ、総体として地域があるとすると、どういった地域から成り立っている地域なのかを示すとよいかもしれない。今後、WS の時にも役立つのではないか。

委員長：他にご意見はいかがか。

委　員：　３４頁のまちづくりの目標について、非常に力強い語尾でとてもよい。２７頁で様々な恐れを聞かされた後、３４頁の力強い言葉が出てくると、住民は大変うれしくなるし、期待する。富山の PR や良さの発信、

そのあたりをマスタープランなので力強くやって、住民を安心させていただきたい。

委員長：　ぜひ、将来に夢を持てるような、待ち遠しくなるようなマスタープランにしてほしい。他、ご意見はいかがか。

委　員：　３０頁のイメージ図について、新技術や地域内共助の言葉が出てきているが、例えば自動運転やライドシェア、デマンドタクシーみたいなものをイメージして書かれているということでよいか。

事務局：　そうである。

委　員：　イメージ図について、赤い点線や実線の矢印がなかなか理解できてない部分がある。これは、鉄軌道のない地域や沿線をイメージされているのか。この矢印はどういうイメージをされているのか教えてほしい。

事務局：　表現したかったこととしては、このような方向である拠点に向かってバスの軸があるということ、拠点で乗り換えると繋がってはいるが、そのつながりが不十分であるということを表現したかった。点線については、公共交通の路線であるが、それが将来の持続性を考えると不安定であることを表現したかった。そういうものについて、新技術などを使って安定的なものにしていきたいという意図を示したかった。ただ、公共交通ではない可能性があるので、点線で表現した。

委　員：　了解した。副次都市拠点などの表現があるが、これはどういったものか。

事務局：　これはまだ正式なイメージ図ではないが、機能の積み上げや活動の機会など、いろんなものがあるのが都心であり、都心ほどではないが積み重なりがあるところが副次都市拠点であることを表現したいものである。

委　員：　了解した。３２頁のイメージ図の中に、団子、利用圏、水かきなどの言葉が出てくるが、言葉がわかりにくい。団子は徒歩圏、利用圏は前の頁に出てきた利用圏域でよいか。水かきは団子と串の間のことか。

事務局：　用途地域ではあるが、団子に入っていないエリアである。

委　員：　了解した。図に赤い線が入っているが、これは将来目指す人口分布ということでよいか

事務局：　そうである。

委　員：　３２頁の右下の図は、市が目指すサービス水準のことでよいか。

事務局：　そうである。

委　員：　３３頁に、「コンパクト以前、現在、将来」のイメージ図があるが、鉄軌道サービスにしてもバスサービスにしてもコンパクト以外のところは、点線でサービス水準が低いというとだと思うが、現在の図についてはどうなっているのか。

事務局：　解像度が悪く申し訳ないが、公共交通のサービス水準は上げてきたということで実線に変えて表現したい。

委　員：　私の理解としては、点線が残り、低いのもあれば高いのもあるイメージで、将来はそれが実線になるという理解であった。

事務局：　サービス水準としては高まってきているが、今後、それを持続できるかどうかは表現したいが、線としては実線かと思っている。
委　員：　ありがとうございます。以上である。
委員長：　では、次に「４　地域別構想作成に向けた分析・検討」、「５　地域別構想作成に向けた市民等との意見交換」について説明をお願いしたい。

**（２）　地域別構想作成に向けた分析・検討、地域別構想作成に向けた市民等との意見交換、今後の予定について（Ｐ３５～３９）**

委員長：　ご説明いただいた部分について、ご意見いかがか。
委　員：　３５頁に抽出したデータ一覧があるが、建築確認の申請を見るとけっこう建て替えが多い。空き家の件数だけを見ていると、家が壊されて新しく家が建ったところはわからない。地域を見ていると、例えば１～３丁目があって、３丁目だけ入れ替わり若返っていたりするところもあり、建て替わったところなどの情報は、地域を見る際に役立つのではないかと思う。そのような情報はあるか。
事務局：　データとしては、確認申請や、新築動向、空き家の情報などはある。今後、こういった居住を把握にあたっては、そういったデータは活用できる範囲で活用していきたい。
委　員：　街が生まれ変わる話だと思うので、定性的でもいいので把握できるところはするとよいのではないか。
委　員：　リフォームして再び住みなおすことを把握することは可能か。
事務局：　リフォームをデータとして抑えることは難しい。
委　員：　リフォームの話がでたが、行政としてはある一定規模じゃないと統計をとっていない。そのため、集計としては難しいだろう。
　これからのワークショップで期待することがある。ぜひいろいろなデータをとっていただきながら進めていただければと思うが、富山で居住するライフステージに合わせて、ここで暮らしていったらいいなと思えるようなワークショップにしてほしい。ここで育ったから、こういう風に住み続けていきたいなと思えるような結果がでるとよい。こういうライフステージで住んでいければ、外部からも呼び込めるというような結果がでてくるとよいと思っている。
委員長：　個別にもお話をしたが、高校生の意見も大切ではないか。大学生は外から来た人が多いが、高校生は地元の人で、親も地元にいる。たとえ、進学で県外へ行ったとしても、富山とは縁が切れない。そういう人の意見も聞いておく必要があるのではないか。都市マスは 20 年ぐらいの計画で、今の高校生がちょうど社会に出てバリバリ働く世代になる間の計画を立てることになる。そのあたり、どのように意見を取得していくか、考えを聞かせてほしい。
事務局：　ワークショップに高校生が入るのは難しい。まだ調整中ではあるが、フランクに意見をいただけるように事前にアンケートなどで、住んで

いる地域の魅力や課題をあげていただく形にしたい。それを市民ワークショップ実施前に整理して、市民にご提案いただけるようにはしたい。

委員長：　大学生でも問題意識の高い学生とそうではない学生がいる。できるだけ、問題意識の高い、地元に愛着のある高校生の意見を引き出せるように考えていただければと思う。

委　員：　現実的ではないのかもしれないが、学校とかに依頼して、ホームルームなどで少し時間をとってもらい、富山の未来について、それぞれの高校にホームルームで講義やディスカッションしてもらって、意見をもらうのもあるのかもしれない。

委　員：　高校だと、地理総合という授業がある。高校によっては、まちづくりみたいなものをテーマにしているところもある。富山ではないのか。

事務局：　実施している高校はある。我々も南富山の関連で少し関わらせていただいたところもあるが、授業までは準備期間が足りず、難しい。

委　員：　都市マスとしてはそうかもしれないが、中長期的には、学校と市役所のタイアップは重要なのかもしれない。

事務局：　小学校の教科書でも富山市のまち探検などやっているところもある。

委員長：　全体を通して何かあるか。よろしいでしょうか。では、本日は活発なご意見をありがとうございました。本日予定した議事はすべて終了とする。事務局に進行を返すこととする。

事務局：　委員長どうもありがとうございました。それでは以上をもちまして、第３回富山市都市マスタープラン検討委員会を閉会とさせていただきます。委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。

以上